

リーディングDXスクール事業【実践事例】

岡山市立岡山中央中学校（岡山県）【指定校】

【取組内容】 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に行い、教科の目標を達成できるようにするために



実験結果
力の大きさは〇.〇N 距離は〇.〇〇mまで記入

18	斜面(どちらか)	2N	0.47	
19				
20	4班	使った道具	引く力の大きさ(N)	手で引いた距離(m)
21		なし(全班)	10	0.1
22		動滑車(どちらか)	4.8	0.1
23		斜面(どちらか)		0.48
24				
25	5班	使った道具	引く力の大きさ(N)	手で引いた距離(m)
26		なし(全班)		
27		動滑車(どちらか)		
28		斜面(どちらか)		
29				
30	6班	使った道具	引く力の大きさ(N)	手で引いた距離(m)
31		なし(全班)	9	0.1
32		動滑車(どちらか)		0.9
33		斜面(どちらか)	1	0.95
34				0.95
35	7班	使った道具	引く力の大きさ(N)	手で引いた距離(m)
36		なし(全班)		
37		動滑車(どちらか)		
38		斜面(どちらか)		
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				
72				
73				
74				
75				
76				
77				
78				
79				
80				
81				
82				
83				
84				
85				
86				
87				
88				
89				
90				
91				
92				
93				
94				
95				
96				
97				
98				
99				
100				

シート1



取組の内容や工夫点

実験をそれぞれの班で協働的に行い、その結果を生徒一人一人が端末に入力することで、生徒全員の結果を共有できるようにした。

生徒は、自分の班だけでなく、他の班の結果を共有することができるようになり、考察するときの根拠に役立てるようにした。



生徒・教職員の変容

実験によるデータを共有して互いに考察を深めることで、生徒がより主体的に学習することができるようになった。

教職員は、個別最適な学びと協働的な学びを一体として授業の中に取り入れることで、学びの質的向上を図ることができるようになると実感している。